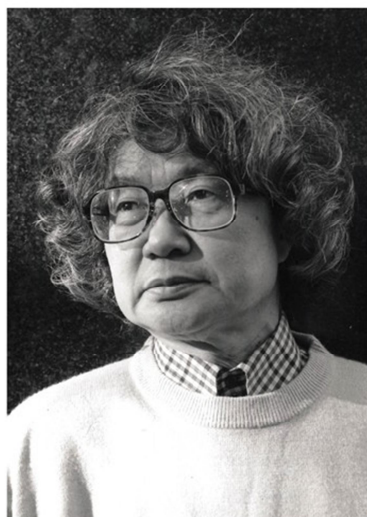




スポット企画展

『鎌田慧セレクション —現代の記録—』 完成記念展



弘前市立郷土文学館

【開館時間】9:00～17:00（入館は16:30まで）

【観覧料】一般100円、小・中学生50円

（弘前市内の65歳以上、市内の小・中学生、市内の外国人留学生、市内外の障がいのある方、ひろさき多子家族応援バスポート持参の方は無料）

〒036-8356 青森県弘前市下白銀町2-1（追手門広場内）

TEL 0172-37-5505 FAX 0172-36-8360

E-mail kyoudo@city.hirosaki.lg.jp

叫びたし寒満月の割れるほど
これほどの絶望を詰めこんだ俳句を知らない。作者は
敗戦後まもない、一九四七年五月、福岡市内で発生した、
ヤミの軍服販売をめぐるトラブルで、二人を拳銃と日本
刀を使った七人で殺害した事件の主犯とされた西武雄
さん（事件当時三十二歳）である。現場にいなかった西
さんが死刑判決だった。獄中二十八年。一九七五年六月
になって、無実の罪を背負ったまま処刑された。

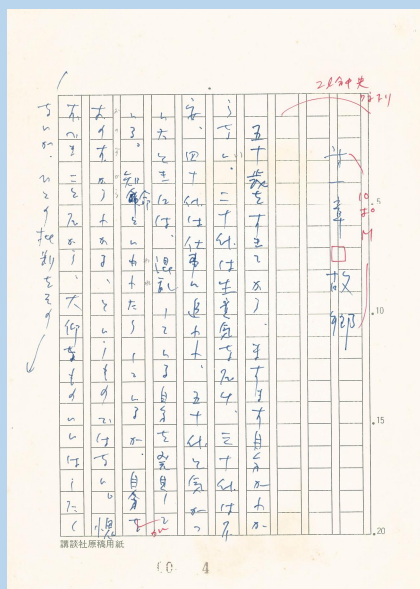
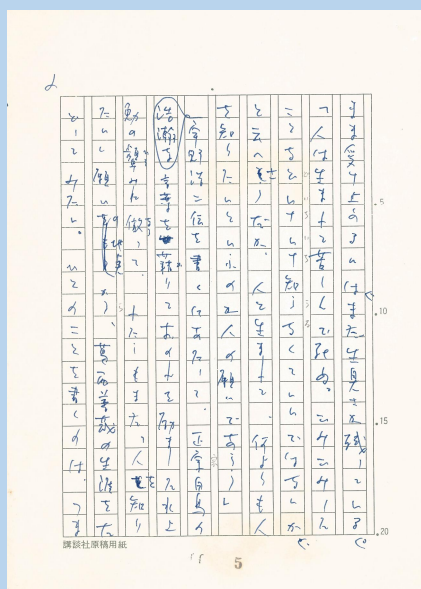
（『鎌田慧セレクション—現代の記録—1』『追う』あとがきより）

令和8年
9月30日（水）～10月30日（金）

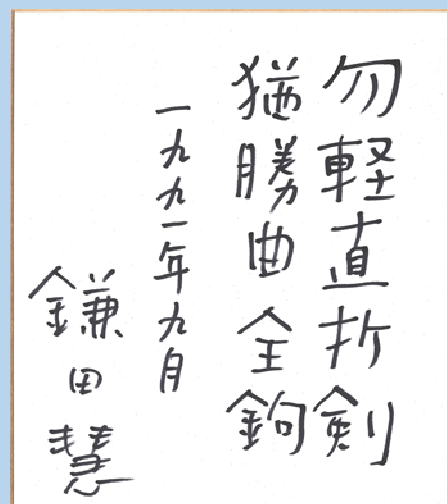
弘前市出身のルポライター・鎌田慧初の自選著作集となる『鎌田慧 セレクションー現代の記録ー』全12巻の完成を記念し、著作や直筆の色紙などを展示します。

かまた さとし
鎌田 慧

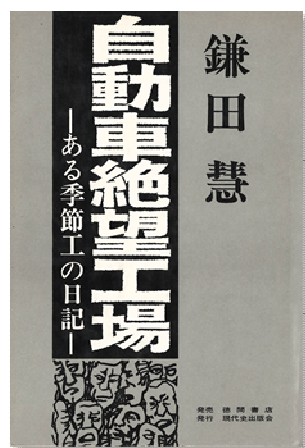
昭和13年、弘前市生まれ。市立朝陽小学校から市立第四中学校、県立弘前高校と進み、上京。3年間町工場で働き、昭和35年早稲田大学第一文学部に入学。卒業後、新聞・雑誌記者を経てフリーライターとなる。昭和48年、トヨタ自動車の季節工の経験をもとに『自動車絶望工場』を発表、注目を集める。以後、教育・人権・労働・公害・事件など、社会問題を追究し、弱者の立場に拠ったルポルタージュを数多く執筆している。また平成6年に発表した『椎の若葉に光あれ 葛西善蔵の生涯』『津軽・斜陽の家』など、郷土の文人を取り上げた伝記もある。平成2年『反骨 鈴木東民の生涯』で新田次郎文学賞を、平成3年『六ヶ所村の記録』で毎日出版文化賞を受賞。



原稿「椎の若葉に光あれ 葛西善蔵の生涯」
第一章 故郷 全24枚



色紙「勿軽直折剣（直き折剣を軽んずなかれ）
猶勝曲全鉤（なお曲りたる全鉤に勝る）」
『反骨 鈴木東民の生涯』からの引用。



現代史出版会 昭和四十八年十二月五日

電機工場の女子労働者に会った時、かの女は、「ベルトコンベアは見ているのと、実際仕事をしているのではスピードがちがう」といった。この言葉はぼくを強く打った。それまで取材で何度かコンベア労働は「見て」いた。そしてそれに従事している労働者たちの話も聞いた。しかし、ぼくはその時何を理解していたのだろうか。「単調労働」「単純反復作業」などの単語の中に、実際労働している人の、精神的肉体的疲労感が、その絶望的な飢餓感がどれだけ含まれているのか、それは見聞きするだけでは、「理解」できるものではなかった。日々の無限の繰り返しの中の労働の中でこそ、ようやく、ベルトコンベアの悪を捉えることができるのを、六カ月の体験の中で初めて知った。

（『自動車絶望工場―ある季節工の日記―』
あとがき「ベルトコンベアについて」より）